

令和 3 年 6 月 25 日現在

機関番号：32630

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2020

課題番号：15K02909

研究課題名(和文) 出土数術文献と中国古代社会

研究課題名(英文) Unearthed divination texts and Ancient Chinese Society

研究代表者

森 和 (MORI, Masashi)

成城大学・民俗学研究所・研究員

研究者番号：10367146

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：まずExcelで作成した「日書」のデータベースを活用して多種多様な占いを分類し、個々の資料の傾向を分析した。次にその過程で浮上した放馬灘秦簡「日書」乙種だけに見える音律占いと「死者復生」故事についてそれぞれ検討を加え、その特徴や葬送習俗などを考察した。また「日書」の占いで多用されているとされる五行説について検討し、五行説に基づく占いが意外に少ないことを明らかにした。「日書」との関連が指摘されてきた『史記』日者列伝の補作説を再検討し、司馬遷の作ではないとする疑念や根拠の薄弱さを指摘し、当該列伝の編纂過程を推定して従来の矛盾を解消し、さらに「日書」の実用性を具体的に明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究で行った分類は一つ一つの「日書」の全体像を見通すことができると同時に、複数の「日書」を通貫できるもので、今後資料増が見込まれる「日書」分析の基礎になり得るものである。また「日書」中の五行説に対する私見や墓での哭礼・沃祭、さらに『史記』日者列伝の再検討は、いずれも従来の見解とは異なり、それらの見直しを迫るという点で学術的意義があると思われる。

研究成果の概要(英文)：First, I created "Rishu" database in Excel, classified a wide variety of divination by using its database, and The trends of individual materials were analyzed. And I considered divinations of Temperament and story of Resurrection of the dead that only seen in Fangmatan "Rishu", revealed its characteristics and funeral customs. Further I considered Five elements theory in "Rishu", it was revealed that divinations based on the five-element theory is surprisingly small.

研究分野：史学

キーワード：中国古代

1. 研究開始当初の背景

1975～76年に湖北省孝感市雲夢県の睡虎地11号秦墓から甲乙2種類の「日書」が出土して以来、時日の吉凶禍福を選択判断する占いを中心として多種多様な占いを抄録する簡牘資料は増加の一途を辿り、現在までに20件近くの「日書」が主に墓葬から発見されている。戦国時代後期から後漢時代にわたる墓葬の年代や広範な地域的分布、また下級官吏から王侯にまで及ぶ墓主の地位身分から、これらの「日書」が中国古代の社会や人々の日常に深く根ざした同時代史料であり、その分析によって「数術」という視点から中国古代社会の新たな一面を描き出せる可能性をもっている。

2. 研究の目的

本研究は、主に戦国～秦漢時代の墓葬から出土する数術関連の簡牘帛書に抄録される種々の占いを類型的に研究し、その背景にある古代中国人の諸観念や文化・習俗について考察することを目的とする。

3. 研究の方法

(1) 全ての図版と釈文・注釈が公開されている①睡虎地秦簡「日書」（甲種166枚；正背両面、乙種259枚）・②放馬灘秦簡「日書」（甲種73枚、乙種379枚）、③孔家坡漢簡「日書」（478枚）のデータベースを作成し、最も研究蓄積がある①に抄録される全ての占いに対して整理分類を行い、その分類を②・③にも敷衍する。

なおデータ入力にあたり、①と②については当初、陳偉主編『秦簡牘合集』（[沔] [肆]、武漢大学出版社、2014年12月）所収の図版・釈文を底本として入力していたが、2016年に陳偉主編『秦簡牘合集 釈文注釈修訂本』（武漢大学出版社、2016年3月）が出版されたため、釈文の底本を修訂本に変更した。③は、湖北省文物考古研究所・随州市考古隊編『随州孔家坡漢墓簡牘』（文物出版社、2006年6月）を底本とした。

(2) 分類の過程で浮上する個々の「日書」の特徴や傾向を踏まえ、個別の占いの検討を通じて中国古代の観念や文化・習俗について考察する。

4. 研究成果

(1) Microsoft社のExcelで作成したデータベースに基づき、「日書」に抄録される多種多様な占いを以下のように分類した。

A 占辞もしくは災禍への対処法があるもの：

- 1 特定の日における複数の行為の吉凶禍福を占うもの。
- 2 特定に一つの行為に対する吉日・良日、忌日を列挙するもの。
- 3 特定の災禍や疾病への対処法や祭祀における祝辞などを記したもの。
- 4 何らかの計算によって吉凶を占うもの。

B 占辞などをもたないもの：

- 1 占法原理あるいはそれに関係すると思われる「数」が記されているもの。

-2 数術家の世界観や死生観などに関わる内容が中心になっているもの。

C その他

この分類は①～③の 3 件 5 種の「日書」を通貫するもので、それによって個々の特徴や傾向がいくらか明らかになった。すなわち A-4 は②放馬灘乙種にしか見られないもので、他の「日書」に比べて「計算」というひと手間かかるため、実用面にはややマイナスであると考えられる。また占いの対象となる行為では①睡虎地に比べて盗者・畜獣の他、伐木が多い傾向があり、放馬灘 1 号秦墓からは計算するための算籌や木材についての記載がある木板地図が同出していることを踏まえるならば、被葬者の志向や職掌が「日書」の内容に関係している可能性も考えられる。

「占いから覗き見る中国古代の人々」(早稲田大学文学部アジア史コース連続講演会「アジア史のひろば」於早稲田大学、2016 年 10 月 21 日)。

「放馬灘秦簡「日書」に見える音律占について」(中國古代史研究會編『中國古代史研究 第八 — 創立七十周年記念論文集一』、東京:研文出版、2017 年 11 月 25 日、pp.368-391)。

(2) また②放馬灘「日書」乙種の特徴として音律に関わる占いが全 20 篇にのぼり、そこに A-4 類がみられることから、占いの基盤(五音・十二律・五音と十二律)と単独で占いができるかどうか(A/B の分類)を整理し、各篇の相互補完的な関係と計算の必要性、「五音配当」が実際の「音」を占いに必要な五音や十二律に該当させるために存在する可能性を明らかにした。

「放馬灘秦簡「日書」に見える音律占について」(中國古代史研究會編『中國古代史研究 第八 — 創立七十周年記念論文集一』、東京:研文出版、2017 年 11 月 25 日、pp.368-391)。

(3) データベースを基に①～③の 3 件 5 種の「日書」における五行説に検討を加え、「日書」における五行説は相勝説と五行配当で、配当の背景には干支を配当するための 2 種類の原理があること、A-2 類で列挙される吉日や忌日などの干支の多くが五行説とは別の原理で選択されていること、また個々の占いでそれぞれ土行の扱いが異なり、かつそれらが雑然と「日書」として一つに抄録されていることなどを明らかにした。

「秦漢《日書》所見的五行説」(第一屆出土文獻與古代文明青年學者研討會、於中國・北京・清華大學。2018 年 8 月 26 日)。

(4) 「日書」との関係性が注目される『史記』日者列伝について、その補作に関する諸注・諸説を整理・再検討したところ、それらの疑念や根拠が薄弱であることが判明したため、列伝本文の構成と内容から検証し、現在の日者列伝が司馬遷による序文・司馬季主の故事・「太史公曰」と「褚少孫曰」以下の補作部分で構成されていることを論証した。また列伝の内容と太史公自序との矛盾については、太史公自序→列伝序文→司馬季主の故事→「太史公曰」という編纂順序を想定することにより解消されることを示した。

“Some Problems in the “Biographies of the Diviners of Lucky Days””, Association of Asian Studies Annual Conference, panel29 “In and Out of the Grand Scribe’s Records: New Perspectives on the First History”. Denver, U.S.A. 2019 年 3 月 21 日。

「『史記』日者列伝の亡佚と補作について」(工藤元男先生退休記念論集編集委員会編『中国古代の法・政・俗』東京:汲古書院、2019 年 12 月 24 日、pp.249-273)。

(5) 中国古代の観念や文化・習俗の面では、まず泰山の「死者の靈魂が赴く先」という属性は後漢以前には明瞭でなく、②放馬灘乙種・丹の「死者復生」故事に見える「趙氏の北地の柏丘の上」のように漢代以前には死者の靈魂が赴く先と認識されていた地が泰山だけに限られないことを示した。それを含めて、泰山の聖性が、春秋戦国時代から秦漢時代にかけて信仰や祭祀の対象、秦の始皇帝と前漢の武帝の封禪による“東”方の名山と陰陽五行説による「生」の属性、秦漢時

代における社会制度の確立・浸透と現実社会を反映した地下他界観を背景とする地下世界における官僚組織の成立など複数の属性が重層的に積み重なり、最終的に後漢時代以降の「泰山府君」が管轄する死者の世界としての泰山に結実したことを論証した。

また②放馬灘乙種・丹の「死者復生」故事および北京大学蔵秦代木牘「泰原有死者」を解読し、そこに見える墓における2つの禁忌、すなわち「哭」礼と墓に供え奉げた「餽」に注ぎかける「沃祭」について検討し、秦代の葬送習俗は後漢・蔡邕『独断』卷下などで「古は墓祭せず」と言われるような状況とは大きく異なる可能性を指摘した。

「泰山の聖性」(成城大学民俗学研究所ワークショップ、於成城大学。2016年3月5日)。

「秦代簡牘「死者復生」と墓儀礼」(成城大学民俗学研究所ワークショップ、於成城大学。2020年12月12日)。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 森和	4. 巻 -
2. 論文標題 『史記』日者列伝の亡佚と補作について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『中国古代の法・政・俗』	6. 最初と最後の頁 pp.249 ~ 273
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森和	4. 巻 第八
2. 論文標題 放馬灘秦簡「日書」に見える音律占について	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『中國古代史研究』	6. 最初と最後の頁 pp.368 ~ 391
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 1件／うち国際学会 3件）

1. 発表者名 MORI Masashi
2. 発表標題 Some Problems in the "Biographies of the Diviners of Lucky Days"
3. 学会等名 Paper prepared for the panel, "In and Out of the Grand Scribe's Records: New Perspectives on the First History," at the Association of Asian Studies Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森和
2. 発表標題 秦漢《日書》所見的五行説
3. 学会等名 第一屆出土文献与古代文明青年学者研讨会 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 MORI Masashi
2. 発表標題 Some Problems in the “Biographies of the Diviners of Lucky Days”
3. 学会等名 Association of Asian Studies Annual Conference 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森和
2. 発表標題 占いから覗き見る中国古代の人々
3. 学会等名 早稲田大学文学部アジア史コース連続講演会「アジア史の広場」(招待講演)
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------